

がくあじさい

雨の降らぬ梅雨時

埃にまみれ、色あせたがくあじさい

酔って蒼くなっても感じ、怖れた

あの娘の持つ‘自然’を

明るすぎる笑いの中をのぞけば

僕よりも傷つきやすい^{てのひら}掌

活発に過ぎる四肢を見つめ続ければ

動かし難い‘生活’への信仰

黙し続けて静寂の中に肩を並べれば

溢れる寸前の思いがけず小さな希望

そっと濡らした心で耳飾りを見れば

ひそやかな、しかし確かな憧れ

雨の降らぬ梅雨時

埃にまみれ、色あせたがくあじさい

(雨よ、お前もためらうか・・・)

(1982.7.3)